

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（１） 歯・口腔疾患	<b>授業担当者</b> 東海林 克	<b>所属</b> 大曲中通歯科診療所	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(歯・口腔疾患 6 時間)	
<b>授業の目的</b> 歯・口腔疾患の発生原因とその進行過程、疾患の診断のプロセス、そして各病期における治療法の概要と、「口腔ケア」業務を安全に確実にを行うための基礎知識についてその要点に関して理解する。			
<b>授業の概要</b> 歯・口腔疾患は他の感覚器分野とは異なり、診療報酬体系も医科とは別となることから、大学医学部付属病院、歯科大学附属病院、等の特殊な環境下に所属しない限り、看護経験をすることのない分野である。 世界の先進国の中で類を見ることの無い超高齢社会となった現在の日本では、「口腔ケア」を必要とする要介護者が増えてきている。さらに近年では、がんを始めとした手術や化学療法、放射線治療の期間中における「周術期等口腔機能管理」が注目されている。 本講はむし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適性に行うことができるようになることを期待して、上記3項目を主眼においた授業計画を設定した。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を配布するので、事前にチェックすること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	顎顔面・歯の解剖と歯科疾患 口腔内の組織の正式名称ならびに、う蝕と歯周病に関して理解する。	講義	
2	口腔内の診査と治療について① 一般歯科治療総説 歯科治療による保存修復物や歯冠・欠損補綴物の状態、歯周組織の状況の把握法について(口腔ケア・アセスメントを適正に行うために)	講義	
3	口腔内の診査と治療について② 口腔ケアについて 歯科治療と古典的な歯科疾患以外の顎口腔疾患(過去に看護師国家試験に出題された内容)とアセスメントの仕方を中心とした口腔ケアに関して概説する。	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 歯・口腔 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を用いて、内容を円滑に行うとともに国家試験受験時に要点を再度参照できるようにする。			
<b>評価の方法</b> 筆記試験（病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点）			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（２） 皮膚疾患	<b>授業担当者</b> 野口 奈津子 山川 岳洋 豊島 あや 佐藤 貴彦	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 皮膚科学・形成外科学	
<b>開講時期</b> :中期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(皮膚疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 感覚器系疾患(皮膚疾患)の病態・検査・治療について理解する。 1. 皮膚の構造と機能を理解する。 2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。			
<b>授業の概要</b> 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。 また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	総論:皮膚の構造と機能、症状と病態生理	講義	野口
2	疾患の理解(1) 湿疹皮膚炎群～角化症(特にアトピー性皮膚炎と尋常性乾癬)	講義	山川
3	疾患の理解(2) 水疱症～物理・化学的皮膚障害(特に天疱瘡、類天疱瘡、熱傷、褥瘡)	講義	佐藤
4	疾患の理解(3) 感染症、母斑・母斑症、腫瘍	講義	豊島
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 皮膚 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験および授業態度から総合的に評価する。(病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（3） 眼疾患	<b>授業担当者</b> 羽瀧 由紀子	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> : 中期～後期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間(眼疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 眼疾患をもつ患者の特徴と看護の役割を学ぶ そのために必要な知識を身につける			
<b>授業の概要</b> 教科書に沿って眼科学一般を学び、看護について学ぶ			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 膨大な内容を短時間の授業で扱うため、できれば教科書の予習をしてほしい			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	総論、目の構造と機能	講義	
2	症状、検査、処置と治療と必要な看護	講義	
3	疾患の理解と看護①	講義	
4	疾患の理解と眼後②	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 眼 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 試験（病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点）			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（４） 耳鼻咽喉疾患	<b>授業担当者</b> 川崎 洋平	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間(耳鼻咽喉疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 感覚器系疾患(耳鼻咽喉疾患)の病態・検査・治療について理解する。			
<b>授業の概要</b> 耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかりと理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈 耳鼻咽喉科の検査と解釈	講義	
2	咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
3	食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
4	耳に現れる症状と病態生理	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験・レポート 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります